

# 環境教育実践Ⅲ

森林環境教育の手法と進め方

日時：平成21年11月14日（土） 10:00～15:00

講師：酒井 立子（よりあい工房ばんどり プロナチュラリスト）

## 概況



環境教育「伝える」から「伝わる」へ

### ○環境教育とは

環境についての教育とは、すなわち、環境問題の原因、現状、解決法を知ることである。環境問題の解決方法には、1. 規制、2. 技術革新、3. 意識改革 がある。意識改革は、自ら考え、判断し、行動するようになることであり、環境教育の役割は、そのような意識を持つ市民を育てることである。

### ○森林・里山環境教育とは

環境教育は、「学ぶ」のではなく「体感する」ことで伝えることができる。「自然体験型環境教育」は、サイエンスや文化などをモチーフとして体験学習を実施する。ここへ、里山についての要素を取り込み、森林・里山環境教育とする。

### ○環境共育 環境楽習

近年、「環境共育」、「環境楽習」といった言葉が使われることが多くなっている。「共育」には指導者も一緒に、「楽習」には単に学ぶのではなく楽しみながら、という意が含まれている。「『見たこと』は忘れる、『聞いたこと』は思い出す、『体験したこと』は理解する、『発見したこと』は身につく」。よって、環境教育においては、後者の2つ「体

験」と「発見」をさせてあげることが大切である。

○「伝える」≠「伝わる」

相手(人)によって考え方、感じ方が異なるため、「伝える」ということは難しい。相手によって、様々なアプローチの仕方、ねらいが存在する。「伝わる」ために最も大事なことは、五感を使って体感することである。

○あなたならどうする？

各自、様々な環境教育プログラムを考え、発表しあった。

午後は遊歩施設にて、酒井氏が当センターで実施している体験学習プログラム「森の楽校」を再現し、受講生は参加者として実際にプログラムに参加した。受講生は、参加者側の体験を通じて新たな発見をし、様々なことを感じる事ができた実習となった。